

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
体育理論		松田 晃二郎		2	前期	講義	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2102	
		担当教員	松田 晃二郎					

幼	科 目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系 列			

【キーワード】		【概要】	
1	生活習慣病	現代社会では身体活動量の減少に伴い、生活習慣病の蔓延や子供の体力低下が懸念されている。また、同時に日本人がどのようにすれば明るく楽しく豊かな生活様式・生活の質（QOL）の向上を図ることができるかが課題となっている。すなわち、生涯にわたって健康生活を維持するためには、ライフスタイルに活発な身体活動や運動を取り込むことが必要である。そこで「身体活動・運動と健康」に重点を置き、自身のライフスタイルを振り返り考察する。また、成長期から高齢期まで幅広い年代の特徴を踏まえ、身体活動が身体に及ぼす効果について科学的に理解を深めていく。※理解度や進捗度により、授業内容を変更することもある。	
2	QOL		
3	身体活動		
4	食生活		
5	フィジカル		

【到達目標】	
1. 身体運動が身体に及ぼす効果について科学的に理解できる。	
2. 生涯を通じて明るく豊かな生活を楽しむための体育・生涯スポーツの必要性について説明できる。	
3. 日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	定期試験		受講態度等	合計
評価割合（％）	60		40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。		
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。		
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。		
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法			
小テスト等の行い、それに対するフィードバックを当該テスト実施の次講義の初めに口頭で行う。			
【教科書】			
必要に応じて資料配布を行う。			
【参考書・参考資料等】			
随時紹介			
【関連科目】			
「体育実技」			
【受講心得】			
積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。			
【備考】			
保育士課程必修、幼稚園教諭課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	はじめに		【学習内容】 講義全体のガイダンスと、体育や身体活動がヒトに及ぼす影響について簡単に説明する。 【事前学習】 体育授業がなぜ大学生に必要なのかを考え、必要に応じて新聞や書籍、論文等を通じて調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める（1時間）。
2	身体活動と健康 （自身のライフスタイルを振り返る）		【学習内容】 身体活動と健康との関係を、大まかに説明する。また、生涯スポーツについての説明もする。 【事前学習】 新聞や書籍、論文等を通じて、身体活動が健康に及ぼす何らかの肯定的な効果を調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、日常生活活動への応用する（1時間）。
3	運動と生活習慣病①		【学習内容】 身体活動と生活習慣病との関係を、先行研究の結果を紹介しながら、説明する。 【事前学習】 新聞や書籍、論文等を通じて、生活習慣病とは何かを調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、日常生活活動への応用する（1時間）。
4	運動と生活習慣病②		【学習内容】 身体活動と生活習慣病との関係を、先行研究の結果を紹介しながら、説明する。 【事前学習】 新聞や書籍、論文等を通じて、身体活動が生活習慣に及ぼす何らかの肯定的な効果を調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、日常生活活動への応用する（1時間）。

5	子ども・高齢者と身体活動	【学習内容】 子どもや高齢者に対する身体活動の役割を説明する。 【事前学習】 なぜ身体活動は、子どもや高齢者に必要なのかを考え、必要に応じて、書籍や論文通して調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める（1時間）。
6	身体活動と体力（有酸素運動を中心に）	体力とは何か、身体活動は体力とどのように関係しているかを説明する。 【事前学習】 どのような身体活動がどのような体力に影響を及ぼすのかを考え、必要に応じて、書籍や論文通して調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、一日
7	運動と栄養 （エネルギー出納バランスの観点から）	運動と栄養の関係性について説明する。 【事前学習】 運動の効果を促進するための栄養補給について考え、必要に応じて書籍や論文等を通して調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、日常生活活動への応用する（1時間）。
8	まとめ	これまで講義内容を振り返りながら、試験対策の講義を行う。 【事前学習】 これまでの7回の講義におけるノートを整理する（2時間）。 【事後学習】 講義の内容を整理しながら、試験に向けて準備する（3時間）。
9	試験	

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
社会的養護Ⅰ		古野 愛子	2	前期	講義	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2202
		担当教員	古野 愛子				

幼	科 目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列	保育の本質・目的に関する科目					必修

【キーワード】		【概要】					
1	要保護児童	社会的養護Ⅰでは、社会的養護を学ぶ上で必要となる基礎知識について学ぶ。内容としては、①現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、②社会的養護の基本、③社会的養護の制度と実施体系、④社会的養護の対象・形態・専門職、⑤社会的養護の現状と課題、について学習し、理解することを目的とする。					
2	家庭養護						
3	家庭的養護						
4	施設養護						
5	権利擁護						

【到達目標】							
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。							
2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。							
3. 社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職等について理解する。							

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○

【成績評価の方法】							
成績指標		出席・授業態度		課題・テスト		合計	
評価割合（％）		30%		70%		100	

【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
課題は授業中に提示し、授業中に返却する。			
【教科書】			
『よりそい支える社会的養護Ⅰ』中山正雄監修、浦田雅夫編著、教育情報出版、2019.			
【参考書・参考資料等】			
『ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック2019』西郷泰之・宮島清編、中央法規、2018. 『保育実習ガイドブック』山崎喜代子・古野愛子編著、ミネルヴァ書房、2017.			
【関連科目】			
社会福祉、社会的養護Ⅱ、保育実習（施設）			
【受講心得】			
授業をしっかりと聞き、ノートに学んだことをまとめて整理しておくこと。			
【備考】			
卒業必修科目、保育士資格の必修科目			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 社会的養護について考えよう！		（1）学習内容 ・社会的養護の概要を知り、社会で問題となっていることについて考える。 （2）事前学習の内容 ・講義前に目次を読んでどんな内容を把握しておくこと。 (1時間) （3）事後学習の内容 ・社会で問題となっていることをレポートにまとめる。 (1時間)
2	第1章 子どもと家庭を取り巻く環境って、変わったのですか？		（1）学習内容 ・子どもと家庭を取り巻く環境、子どもの貧困、児童虐待と社会的養護について学ぶ。 （2）事前学習の内容 ・講義前に教科書p14～20をよく読んでおくこと。 (1時間) （3）事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
3	第2章 子どもの「権利擁護」と「社会的養護」って何ですか？		（1）学習内容 ・社会的「養護」と子どもの権利「擁護」、親の「権利」について考える。 （2）事前学習の内容 ・講義前に教科書p21～28をよく読んでおくこと。 (1時間) （3）事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
4	第3章 「要支援児童」や「要保護児童」って何ですか？		（1）学習内容 ・「要保護児童対策地域協議会、児童相談所、一時保護所、児童家庭支援センターについて学ぶ。 （2）事前学習の内容 ・講義前に教科書p29～38をよく読んでおくこと。 (1時間) （3）事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)
5	第4章 どのような施設があるのですか？ どうやって入所するのですか？		（1）学習内容 ・措置について学ぶ。児童福祉施設に入所している子ども達の施設での生活について知る。 （2）事前学習の内容 ・講義前に教科書p39～66をよく読んでおくこと。 (1時間) （3）事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。 (1時間)

6	第5章 家庭と同様の養育環境の保障って どういうことですか？	(1) 学習内容 ・里親制度、里親支援専門相談員、特別養子縁組、ファミリーホームについて知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p67～78をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
7	第6章 社会的養護って、昔からあるの ですか？	(1) 学習内容 ・明治期から高度成長期までの社会的養護の歴史について学ぶ。諸外国の社会的養護について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p79～90をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
8	第7章 社会的養護で大切にされているこ とって、何ですか？	(1) 学習内容 ・子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むことについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p91～96をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
9	第8章 実際のケアで大切にされているこ とって、何ですか？	(1) 学習内容 ・家庭的養護と個別化、発達を保障する、自立を支える、回復をめざした支援、家族との連携、協働、パーマネンシーケア、ライフサイクルを見通した支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p97～112をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
10	第9章 養育の営みを支えるために、知っ ておくべきことは何ですか？	(1) 学習内容 ・アタッチメントとホスピタリズム、ノーマライゼーション等の心理的支援や家族の支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p113～134をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
11	第10章 社会的養護のしくみって、どう なっているのですか？	(1) 学習内容 ・社会的養護全体の体系、養育形態、しくみ、施設や里親家庭での子ども達の生活費について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p135～144をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
12	第11章 社会的養護の場では、どんな人が 働いているのですか？	(1) 学習内容 ・保育士の役割、心理職の役割、だみりーソーシャルワーカーの役割、その他の専門職の役割について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p145～156をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。

13	第12章 施設や里親家庭でも虐待はあるの ですか？	(1) 学習内容 ・生活のルール、施設や里親家庭で起こりやすい人権侵害、被措置児童等虐待をなくす取り組みについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p157～164をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
14	第13章 これからの社会的養護の課題っ て、何ですか？	(1) 学習内容 ・施設の小規模化、子どもの自立支援とアフターケアの充実、家庭への支援の充実、地域子育て支援と児童虐待の予防、里親と共に子どもを支えることについて学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p165～178をよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
15	まとめ	(1) 学習内容 ・これまでの授業で学んだことを総復習する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書のこれまで学んだところをよく読んでおくこと。 (3) 事後学習の内容 ・教科書等を見ながら、今日のポイントをまとめる。
16	試験	試験範囲は事前に授業内で伝える。

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（健康）		谷川 裕子		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2301	
		担当教員	谷川 裕子					

幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
保	系 列	保育内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】	【概要】					
1 保育内容	子どもの健康な心と体を育むための援助法を学ぶ。そのためには領域「健康」ねらいや内容を理解し、保育の場を想定した計画と実践、振り返りを行う中で教材活用を具体的に学ぶ。また身体活動を促す保育者として子どもの多様な動きを体験させ、引き出せるように共に楽しく動ける体を習得する。そのために情報機器（IPAD等）を使用し、自身または他者の動きを客観的評価する。様々な情報機器を活用することは学習情報を拡大するため、自身の活動意欲へと結びつくことまた向上することを理解する。					
2 指導法						
3 健康						
4 身体活動						
5						
【到達目標】						
1. 子どもの発育発達を見通した領域「健康」としての教材を活用できる。						
2. 子どもの発育発達を見通した指導案が作成できる。						
3. 模擬保育を通して自身の課題発見、課題解決ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	指導法・実践力	課題提出	取り組む姿勢	合計		
評価割合（％）	50%	30%	20%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし （出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	理論に基づいた実践ができる。課題に真摯に向き合い課題解決ができています。					
A	理論に基づいた指導計画が作成できる。課題に真摯に向き合い向上しようとする姿勢がある。					
B	指導計画が作成できる。課題において思考することができる。					
C	指導計画を提出することができる。求められる課題において最低限の取り組みができる。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
提出された課題において、返却をもって授業時に行う。		
【教科書】		
『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』井上勝子他 建帛社		
【参考書・参考資料等】		
『新訂 豊かな感性を育む表現遊び』井上勝子他 きょうせい		
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）		
『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）		
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）		
【関連科目】		
「子どもと健康」		
【受講心得】		
体を使っての授業のため、実習着での参加とする。また裝飾品はつけてこない。体験を重視とするため遅刻、欠席をしない。模擬保育が中心となるため身体活動を行う保育士としての身なりや立ち居振る舞いを心がける。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修，保育士資格必修		
【学習項目】		担当
		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（身体活動の意義・ICT活用の意義）	本授業の到達目標の確認と、全体の授業内容を伝達する。 保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。事前学習：1年次に受講した「子どもと健康」の学習内容を振り返る。また指定された教科書を用意する（30分）事後学習：課題を行う（30分）
2	集団遊びの計画と実際	運動遊びの意義や効果を解説し、「運動遊びの指導計画」をグループごとに立てるとともに実践を行う。事前学習：幼児期運動指針を読んでおく（1時間）事後学習：実践における課題を見出す（30分）
3	集団遊びの実際と振り返り（ipad動画により自身・他者の動きを確認）	他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。集団遊びの意義を伝えるようになる。事前学習：幼児期運動指針を読んでおく（1時間）事後学習：次週の指導案課題（素材）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
4	素材を使った遊びの計画と実際	素材遊びの特徴を生かした指導案作成を行う、またグループで実践する。事前学習：素材遊びを考えておく（30分）事後学習：素材遊びの実践例を授業で学習したことを記述しておく。（1時間）
5	素材を使った遊びの実際と振り返り	他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。素材遊びの発達に即した遊びを伝えるようになる。事前学習：授業の内容確認を行う（30分）事後学習：次週の指導案課題（小型遊具）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
6	小型遊具を使った遊びの計画と実際	小型遊具を使った遊びの特徴を生かした指導案作成を行う、またグループで実践する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分）事後学習：小型遊具での遊びを授業で学習したことを記述しておく。（1時間）

7	小型遊具を使った遊びの実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。 小型遊具の特性を伝えるようになる。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：次週の指導案課題（大型遊具）の遊びの実践例を調べるまたは考えておく（1時間）
8	大型遊具を使った遊びの計画と実際		大型遊具の特徴を生かした指導案作成を行う、大型遊具の際の安全性について解説する。指導案についてはグループで実践する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：大型遊具遊びの実践例を授業で学習したことを記述しておく。（1時間）
9	大型遊具を使った遊びの実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。 大型遊具遊びの安全性について伝えられるようになる。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：次週の指導案課題（リズムダンス・体操）の情報収集しておく（30分）
10	リズムダンス・リズム体操の計画と実際		リズムダンス・リズム体操の指導を実践する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：自己課題を見出す（30分）
11	リズムダンス・リズム体操の実際と振り返り		他グループの実践の考察を行い、自己課題の解決を図る。 リズムダンス・リズム体操の効果的な指導法を理解する。事後学習：他グループの作品を記述しておく（1時間）
12	運動会の計画と実際(情報機器で入手した園児の動画を分析)		特別活動における運動遊びの意義を解説する。また実際のこどもの発表を動画で観察する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：授業で見聞きしたもの以外で特別活動について調べる（1時間）
13	運動会の実際と振り返り		運動会の企画・準備・実際を行い、運営の在り方を理解する。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：実際の反省を記述する（30分）
14	イメージから身体表現遊びの計画と実際		身体表現遊びから動きを引きだす指導法を学ぶ、幼児期の身体表現の意義を理解し、指導を計画し実践する。事後学習：指導法より動きの引き出し法について整理する（1時間）
15	イメージから身体表現遊びの実際と振り返り		他者グループから動きの効果的な引き出しを学ぶ。事前学習：授業の内容確認を行う（30分） 事後学習：全授業の課題とまとめを提出する（1時間半）

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容（人間関係）			飯塚 恭一郎		2	前期	演習	選択	1
			担当形態	単独	ナンバリング			CE2302	
			担当教員	飯塚 恭一郎					

幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び機材の活用を含む）		
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】		【概要】				
1	保育内容	・ 保育内容「人間関係」領域について、教育実習や保育実習での観察事例をもとに保育現場における人間関係の有り様を考察していく。 ・ 保育現場での観察事例を小グループでのディスカッションを通して考察し、個人と個人あるいは個人と集団などさまざまな人との関係性の理解を深めていく。 ・ 保育現場におけるさまざまな人との関係について、保育者がどのようなスタンスとねらいを持ってかかわっていくべきか多面的な視点で保育の方法を考えていき、その考えを視聴覚教材を活用して伝えていく。				
2	人間関係					
3	信頼関係					
4	個と集団					
5	相互理解					
【授業のテーマ及び到達目標】 1. 保育現場におけるさまざまな人間関係を、当事者の心情に寄り添うことを大切にしながら客観的にとらえることができる。 2. 人間関係の解釈は答えはひとつでないことを前提に、それぞれの立場を尊重しながらベターな選択ができるためのいくつかの視点を持って関係性を理解できる。 3. 保育現場の人間関係を、そこにかかわる保育者としてコーディネートや仲介をするためのいくつかの方法を視聴覚機器や視覚教材を使って説明することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○				
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計		
評価割合（％）	20%	40%	40%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	受講態度は良好で、講義内容を十分に理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が極めてよい。					
A	受講態度は良好で、講義内容を理解しており、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が十分である。					
B	受講態度はやや難があり、講義内容を総じて理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が平均的である。					
C	受講態度は難があり、講義内容の概要は理解しているが、課題・演習の内容および試験の設問に対する解答が最低限で留まっている。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。		
【教科書】 毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著（嵯峨野書院）		
【関連科目】 「子どもと人間関係」「保育原理」「保育内容総論」		
【受講心得】 他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。		
【備考】 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】		担当 学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス	【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。 【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）
2	子どもと大人（保育者）の関係① －事例抽出とディスカッション－	【学習内容】 保育実習・教育実習の実習日誌記録から、子どもと保育者あるいは実習生といった子ども対大人の「一対一」の人間関係事例を抽出し、その関係性について複数名でディスカッションをする。 【事前学習】 実習日誌に目を通し、授業テーマに沿った事例についてあらかじめ目星をつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 ディスカッションで話題になったことについて自分なりの考察をして考えをまとめておく。（1時間）
3	子どもと大人の関係② －考察と発表準備－	【学習内容】 前回授業のディスカッション内容からグループで考察を行い、その結果を発表できるよう発表資料作りに取り組む。 【事前学習】 手持ちのディスカッションの記録と自分の考察をある程度まとめ、考察ディスカッションの準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 発表資料作成の手直しや発表の分担等を確認し発表の準備をしておく。（1時間）
4	子どもと大人の関係③ －発表と講評－	【学習内容】 子ども対大人の「一対一」の人間関係をテーマにディスカッションと考察をした結果を発表する。併せて他グループの発表内容も聞き、人間関係について学びを深める。 【事前学習】 発表に関してグループ内の役割の確認等の打ち合わせを行っておく。（0.5時間） 【事後学習】 自グループの発表内容と他グループの発表内容とを比較するなどして子ども対大人の「一対一」の人間関係に関する知見を広げ理解を深める。（1時間）

5	子ども同士の関係① －事例抽出とディスカッション－		【学習内容】 保育実習・教育実習の実習日誌記録から、子ども同士の人間関係事例を抽出し、その関係性について複数名でディスカッションをする。 【事前学習】 実習日誌に目を通し、授業テーマに沿った事例についてあらかじめ目星をつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 ディスカッションで話題になったことについて自分なりの考察をして考えをまとめておく。（1時間）
6	子ども同士の関係② －考察と発表準備－		【学習内容】 前回授業のディスカッション内容からグループで考察を行い、その結果を発表できるよう発表資料作りに取り組む。 【事前学習】 手持ちのディスカッションの記録と自分の考察をある程度まとめ、考察ディスカッションの準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 発表資料作成の手直しや発表の分担等を確認し発表の準備をしておく。（1時間）
7	子ども同士の関係③ －発表と講評－		【学習内容】 子ども同士の人間関係をテーマにディスカッションと考察をした結果を発表する。併せて他グループの発表内容も聞き、人間関係について学びを深める。 【事前学習】 発表に関してグループ内の役割の確認等の打ち合わせを行っておく。（0.5時間） 【事後学習】 自グループの発表内容と他グループの発表内容とを比較するなどして、子ども同士の人間関係に関する知見を広げ理解を深める。（1時間）
8	個人と集団の関係① －事例抽出とディスカッション－		【学習内容】 保育実習・教育実習の実習日誌記録から、子ども個人とクラス集団あるいは小グループの仲間集団「個と集団」の人間関係事例を抽出し、その関係性について複数名でディスカッションをする。 【事前学習】 実習日誌に目を通し、授業テーマに沿った事例についてあらかじめ目星をつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 ディスカッションで話題になったことについて自分なりの考察をして考えをまとめておく。（1時間）
9	個人と集団の関係② －ディスカッションと考察－		【学習内容】 子ども個人とクラス集団あるいは小グループの仲間集団「個と集団」の人間関係について、前回授業のディスカッションの続きに取り組む、事例から見て取れる人間関係について考察を深める。 【事前学習】 手持ちのディスカッションの記録と自分の考察をある程度まとめ、考察ディスカッションの準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 ディスカッションと考察の記録を元に、発表資料作成のプランを練っておく。（1時間）

10	個人と集団の関係③ －発表準備－		【学習内容】 前回授業のグループでのディスカッションと考察の内容を整理し、その結果を発表できるよう発表資料作りに取り組む。 【事前学習】 手持ちのディスカッションの記録と考察を再度まとめ、発表資料作成の準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 発表資料作成の手直しや発表の分担等を確認し発表の準備をしておく。（1時間）
11	個人と集団の関係④ －発表と講評－		【学習内容】 子ども個人とクラス集団あるいは小グループの仲間集団「個と集団」の人間関係をテーマにディスカッションと考察をした結果を発表する。併せて他グループの発表内容も聞き、人間関係について学びを深める。 【事前学習】 発表に関してグループ内の役割の確認等の打ち合わせを行っておく。（0.5時間） 【事後学習】 自グループの発表内容と他グループの発表内容とを比較するなどして、子ども個人とクラス集団あるいは小グループの仲間集団「個と集団」の人間関係に関する知見を広げ理解を深める。（1時間）
12	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係① －事例抽出とディスカッション－		【学習内容】 保育実習・教育実習の実習日誌記録から、「気になる子ども」と周囲の子どもとの人間関係事例を抽出し、その関係性について複数名でディスカッションをする。 【事前学習】 実習日誌に目を通し、授業テーマに沿った事例についてあらかじめ目星をつけておく。（0.5時間） 【事後学習】 ディスカッションで話題になったことについて自分なりの考察をして考えをまとめておく。（1時間）
13	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係② －考察と発表準備－		【学習内容】 前回授業のディスカッション内容からグループで考察を行い、その結果を発表できるよう発表資料作りに取り組む。 【事前学習】 手持ちのディスカッションの記録と自分の考察をある程度まとめ、考察ディスカッションの準備をする。（0.5時間） 【事後学習】 発表資料作成の手直しや発表の分担等を確認し発表の準備をしておく。（1時間）
14	気になる子どもと 周囲の子どもとの関係③ －発表と講評－		【学習内容】 「気になる子ども」と周囲の子どもとの人間関係をテーマにディスカッションと考察をした結果を発表する。併せて他グループの発表内容も聞き、人間関係について学びを深める。 【事前学習】 発表に関してグループ内の役割の確認等の打ち合わせを行っておく。（0.5時間） 【事後学習】 自グループの発表内容と他グループの発表内容とを比較するなどして、「気になる子ども」と周囲の子どもとの人間関係に関する知見を広げ理解を深める。（1時間）

1 5	授業の振り返りとまとめ		【学習内容】 授業内で扱った保育現場での子どもを取り巻く人間関係の4つの事例からの学びを振り返り，保育内容における「人間関係」について理解を深める。 【事前学習】 これまでの授業で作成した発表資料はプリント配布資料を整理し，全体を概観しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業の学びをもとに，保育の中で子どもの人間関係について「自分目線」で何ができるか何を考えていったら良いかを考える。（1時間）
1 6	定期試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと環境		田尻 由美子		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独	ナンバリング			CE2203	
		担当教員	田尻 由美子					

幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項		
保	系 列	保育の内容・方法の理解に関する科目		必修

【キーワード】		【概要】	
1 環境	領域「環境」の指導に関連する子どもを取り巻く環境や子どもと環境との関わりについて、専門的事項における感性、知識・技能などを身につけることを目的としている。映像や視聴覚教材などを活用しながら具体的事例に基づき、領域環境のねらいや内容、内容の取扱いについて学びを深める。また、大学の近隣を散策したり実際に遊びを体験するなど、身近な自然や環境に触れあうグループワークを取り入れ、学生自身が多くの気づきや感性を表現できるように授業を展開していく。		
2 自然環境			
3 感性			
4 物的環境			
5 保育内容			

【到達目標】	
1. 子どもを取り巻く環境と発達について、関連性や環境との相互作用の意義、指導上の留意点を理解する	
2. 幼児期の思考・科学的概念の発達や自然、数量、標識・文字、情報・施設との関わりなどを理解する	
3. 幼稚園教育要領や保育所保育指針で示されている領域環境のねらいや内容を理解する	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性
【知識・理解・技能】		
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		
【思考・判断・表現】		
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○
【関心・意欲・態度】		
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		

【成績評価の方法】				
成績指標	受講態度・課題・レポート		定期試験	合計
評価割合（％）	40		60	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
定期試験結果：到達目標に達しなかった具体的項目と評価結果について、個別に開示し解説する。授業中の小テスト・レポート等：すべてについて、適宜、授業中に返却し解説する。		
【教科書】		
『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館		
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館		
その他の参考図書、絵本等は授業中に随時紹介する。資料は適宜配布する。		
【関連科目】		
「保育内容総論」「保育内容（環境）」「子ども理解の方法」		
【受講心得】		
学習内容を実習や保育現場で応用し、実践できるよう学んでください。毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなどして、日常の学習を大切にしてください。幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読してください。		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修、保育士資格必修		
【学習項目】		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション、領域「環境」とは	学習内容 授業概要、受講の心得、評価などについてシラバスを基に確認する 領域の考え方、領域環境のねらい、保育者の役割などについて理解する 事前学習 シラバスを読んでおく 保育所保育指針の3歳以上児の領域環境のねらいについて読んでおく（1時間） 事後学習 領域環境のねらいについて概要と留意点、保育者の役割を簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
2	子どもを取り巻く環境①（人的・物的環境）	学習内容 子どもを取り巻く環境について考えを発表し共有することで概要を捉える それぞれの環境の幼児にとっての意義や留意点を考える 保育所保育指針の内容①～⑩の概要を理解する 事前学習 子どもを取り巻く環境について考えておく 保育所保育指針の内容①～⑩を読んでおく（1時間） 事後学習 保育環境の実際について、実習経験を振り返ってまとめておく簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
3	子どもを取り巻く環境②（社会環境・安全等）	学習内容 子どもを取り巻く環境について、特に保育環境について実習体験を基に学生自身が考え、発表してクラスで共有する 保育環境の実際と留意点を理解する 事前学習 実習体験を踏まえ保育環境の留意点について考えておく（1時間） 事後学習 保育環境の実際と留意点について学習内容を整理し、簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
4	子どもと環境①（能動性・好奇心・探求心等）	学習内容 幼児期に育てたい力について、物に関わる保育の意義と留意点を考える 保育所保育指針内容②⑧、内容の取扱い①を理解する 事前学習 保育所保育指針内容②⑧、内容の取扱い①を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を整理し、物と関わる保育の意義と留意点を簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
5	子どもと環境②（感性・科学的思考・創造性）	学習内容 幼児期に育てたい力について、自然と関わる保育の意義と留意点を考える 保育所保育指針内容①③④、内容の取扱い②を理解する 事前学習 保育所保育指針内容①③④、内容の取扱い②を読んでおく（0.5時間） 事後学習 学習内容を整理し、自然と関わる保育の意義と留意点を簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
6	乳幼児期の生物・自然との関わり①	学習内容 生き物や自然と関わる保育について理解する 保育所保育指針の1歳以上3歳未満児の領域環境について理解する 事前学習 保育所保育指針1歳以上3歳未満児の領域環境を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を整理し、生き物や自然と関わる保育について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）

7	乳幼児期の生物・自然との関わり②	学習内容 地域の環境（公園）を利用した保育実践について、実際に学外において体験しながら学びを深める 事前学習 自然との関わりを中心にした遊びを考えておく（1時間） 事後学習 学習内容を振り返り、保育実践を確実に身につけるよう復習しておく（1時間）
8	乳幼児期の認知的発達の特徴（命の概念）	学習内容 認知的発達の特徴を踏まえ、かつ近年の認知心理学の研究成果を基に命の概念や数量の概念形成について理解する。保育所保育指針内容⑤、内容の取扱い③を中心に留意点などを理解する 事前学習 保育所保育指針内容⑤、内容の取扱い③を読んでおく（1時間） 事後学習 資料の整理や学習内容の整理をし、命の概念形成について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
9	乳幼児期の伝統文化との関わり（現代的課題）	学習内容 現代的課題として、国際化に伴う異文化理解について領域環境の視点から考える。保育所保育指針内容⑥、内容の取扱い④などを理解する 事前学習 保育所保育指針内容⑥、内容の取扱い④を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を整理し、伝統文化に関わる保育について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
10	乳幼児期の物との関わり（環境教育）	学習内容 物を大切に扱うことを通して、現代的課題としての持続可能な社会のための教育（ESD）を領域環境の視点から考える。保育所保育指針内容⑦を理解する 事前学習 保育所保育指針内容⑦を読んで理解しておく。地球環境について問題点を整理しておく（0.5時間） 事後学習 学習内容を整理し、物を大切にする保育の意義と留意点について簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
11	乳幼児期の数量・図形との関わり	学習内容 数量・図形などにかかわる保育で育つ力について理解する。保育所保育指針内容⑨、内容の取扱い⑤について理解する 事前学習 保育所保育指針内容⑨、内容の取扱い⑤を読んでおく（1時間） 事後学習 学習内容を整理し、数量・図形との関わりについて簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
12	乳幼児期の標識・文字との関わり	学習内容 標識と文字にかかわる保育について理解する。保育所保育指針内容⑩、内容の取扱い⑤について理解する 事前学習 保育所保育指針内容⑩、内容の取扱い⑤を読んでおく（0.5時間） 事後学習 学習内容を整理し、標識・文字との関わりについて簡潔に述べられるよう復習しておく（1時間）
13	乳幼児期の情報・地域の施設との関わり	学習内容 地域の施設・環境にかかわる保育について理解する。保育所保育指針内容⑪を理解し園外保育の留意点などを学び指導案を立案する 事前学習 保育所保育指針内容⑪を読んでおく（0.5時間） 事後学習 地域の環境（公園）に関わる保育について、指導案を完成させる（1時間）
1 4	乳幼児期の地域の施設との関わり（園外保育）	学習内容 地域の施設（公園等）を利用した園外保育の模擬保育を実践し、振り返りを行って指導力を確実に身につける 事前学習 地域の環境（公園）に関わる保育について、模擬保育の準備をしておく（0.5時間） 事後学習 模擬保育の実践結果と改善点をレポートにまとめ、完成させて提出準備をする（1時間）
1 5	振り返りとまとめ	学習内容 1回～14回の学習内容や保育所保育指針の内容①～⑪、内容の取扱い①～⑤を振り返り、補足やまとめを行う 事前学習 14回までの授業時に配布したすべての資料を整理し、ノートをもとめうえで持参する（1時間） 事後学習 授業の振り返りとノートの整理を行い定期試験の準備を行う（1時間）
1 6	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
特別支援教育Ⅰ		牧野 桂一		2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2204	
		担当教員	牧野 桂一					

幼	科 目	教育の基礎的理解に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目		必修

【キーワード】		【概要】				
1	障害児保育	近年、保育所・幼稚園では、障害認定までには至らないが、発達に遅れや偏りがある子どもが増加しているといわれている。そのような状況で障害のある子どもの保育・教育に関する知識はさらに重要になってきている。また、障害や出生後の養育環境によって、生活のしづらさや困りごとを抱える子どもへの対応や、その課題への解決方法を具体的に計画・提供することが必要となってくる。本授業では、それらの子どもに対応していくために必要な知識や支援方法を理解していく。				
2	知的障害					
3	発達障害					
4	言語障害					
5	合理的配慮					
【到達目標】						
1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する						
2. 特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒の教育課程及び支援の方法を理解する						
3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○		
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				○		
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○		
【成績評価の方法】						
成績指標		定期試験		提出物および受講態度		合計
評価割合（％）		60		40		100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
課題、レポートについては、講義の中での発表などについては必要に応じて適宜活用する。			
【教科書】			
『受けとめる保育』牧野桂一 エイデル研究所 『特別支援学校・学習指導要領』文部科学省			
【参考書・参考資料等】			
『特別支援学校学習指導要領・解説書』文部科学省『ことばを育てる保育支援』牧野桂一・山田真理子『子らのいのちに照らされて』牧野桂一 樹心社			
【関連科目】			
「特別支援教育Ⅱ」「子どもの心理学」「子ども家庭福祉」			
【受講心得】			
・授業時間内に頭と手を動かして、課題・グループワークに取り組んでください。 課題内容やグループワークの活動状況も成績評価の対象とします。 ・事前学習、事後学習については、別にA5版のノートを作って、記録するようにしてください。			
【備考】			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み		<学習内容>初回の授業であるため、15回の講義の概要とともに特別支援教育の基本的理念を中心にその歴史や制度、仕組みについて説明する。<事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間）<事後学習>特別支援教育の基本に関する歴史や制度の概要について復習する。（1時間）
2	特別の支援を必要とする子どもの学習の過程・教育の課程（通級による指導、自立活動）		<学習内容>特別支援教育を必要とする子どもの特性を基本にしなが、その特性に応じた学習の形態と学習過程・教育課程について特別支援学校、普通学校の内容を学ぶ。特別支援教育に関して基本になる法令と専門語について説明する。<事前学習>学習指導要領全般について目を通す。（1時間）<事後学習>学習した学習指導要領の内容、基本的な法令、専門用語をまとめ、理解を深めておく。（1時間）
3	視覚障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①視覚障害の定義について学ぶ。②視覚障害児の発達特性と心理的特性について周りの人たちとの関わりを通して学ぶ。※講義の間に二人組になり盲人体験をする。③視覚障害教育の特質である盲教育と弱視教育について学ぶ。<事前学習>指導要領の視覚障害について熟読する。（1時間）<事後学習>視覚障害にかかわる学習指導要領の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）※身近な人と盲人の疑似体験をする。
4	聴覚障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①聴覚障害の定義②聴覚障害児の発達特性と心理的特性③視覚障害教育の特質について学ぶ。<事前学習>指導要領の聴覚障害について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した学習指導要領の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）※身近な人と聴覚障害の疑似体験をする。
5	知的障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①知的障害の定義について学ぶ。②知的障害児の発達特性と心理的特性について、周りの人たちとの関わりを通して学ぶ。③知的障害教育の特性について学ぶ。<事前学習>指導要領の知的障害について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した学習指導要領の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）
6	肢体不自由児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法		<学習内容>①肢体不自由の定義について学ぶ。②肢体不自由児の発達特性と心理的特性について学ぶ。③肢体不自由教育の特性について学ぶ。<事前学習>指導要領の肢体不自由について熟読する。（1時間）<事後学習>学習した肢体不自由の子どもの教育の内容をまとめ、理解を深めておく。（1時間）

7	病弱児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法	<学習内容>①病弱の定義について学ぶ。②病弱児の発達特性と心理的特性について学ぶ。③病弱児教育の特性について学ぶ。<事前学習>指導要領の病弱について熟読する。(1時間) <事後学習>学習した病弱児の教育の内容をまとめ、理解を深めておく。(1時間)
8	発達障害児の心理的特性・学習上・生活上の困難・支援の方法	<学習内容>①発達障害の定義について学ぶ。②発達障害児の発達特性と心理的特性について学ぶ。③発達障害児の教育の特性、特に「自閉スペクトラム症」「注意欠如多動症」「学習障害」について学ぶ。④発達障害児の指導方法について学ぶ<事前学習>発達障害についての情報を収集する。(1時間) <事後学習>学習した発達障害の子どもの教育の内容をまとめ、理解を深めておく。(1時間)
9	障害はないが特別的教育的ニーズのある子ども(母国語や貧困の問題)	<学習内容>①障害はないが特別的教育的ニーズのある子どもの現状について学ぶ。②帰国子女、外国籍の子どもの現状と課題③貧困の中にいる子どもも現状と課題④児童虐待の現状と課題、対処の方法について学ぶ。<事前学習>子どもの貧困と虐待についての情報を収集する。(1時間) <事後学習>学習したさまざまな課題のある子どもへの現状と課題をまとめ、理解を深めておく。(1時間)
10	障害はないが特別的教育的ニーズのある子ども(気になる子ども)	<学習内容>①気になる子どもの現状について学ぶ。②気になる子どもの発達特性と心理的特性について学ぶ。③気になる子どもの教育の特性、特に「ことばの問題」「行動の問題」「日常生活の問題」「人間関係の問題」について学ぶ。④気になる子どもへの配慮と指導方法について学ぶ<事前学習>気になる子どもの情報を収集する。(1時間) <事後学習>学習した気になる子どもの教育の内容をまとめ、理解を深めておく。(1時間)
11	発達のアセスメントと支援(個別教育・指導計画)	<学習内容>①一人一人の子どもの実態を把握するためのアセスメントのあり方。②アセスメントの中核を担う発達検査や心理検査の概要③知的障害や発達障害を理解するためのアセスメントの活用④一人一人の子どもの発達の現実に基づいた個別の保育計画の立案アセスメントに対する保育の評価のあり方<事前学習>発達検査や心理検査の情報収集(1時間) <事後学習>講義で使ったチェックリストを身近な気になる子どものモデルを使って試してみる。(1時間)
12	インクルーシブ教育システムと教育的配慮	<学習内容>インクルーシブ教育の概要。②インクルーシブ教育を支える障害者の人権問題③インクルーシブ教育に関わる啓発活動④障害のある子どもへの合理的配慮を巡る問題<事前学習>障害者の人権条約を読んでおく。<事後学習>障害者への合理的配慮を整理する(1時間)
13	家庭支援と相談体制	<学習内容>障害のある子どもを支える家庭支援と相談体制の整備②障害のある子どもを支える家庭での支援のあり方と各種の支援制度の活用③障害のある子どもを支えるための相談のあり方と各種の障害児童支援機関との連携④障<事前学習>保護者支援に関する情報を収集する。<事後学習>自分のする地域の障害者支援のための関係機関を整理する(1時間)
14	小学校との連携と一人一人の子どもの進路	<学習内容>小学校における障害のある子どもの受け入れの現状と課題②幼稚園・保育園・こども園と小学校の連携に必要なもの③就学の基準と適正な就学指導④連携に必要な書類の整備と活用。<事前学習>地域にある小学校における障害のある子どもの受け入れの現状について調査しておく。<事後学習>自分の滞っている地域の小学校の特別支援教育について調査するしそれを整理する(1時間)
15	障害児教育の課題	<学習内容>就学前の特別支援教育と就学後の特別支援教育の違いに見る特別支援教育の課題②集団保育の中における特別支援教育の課題③保育現場における特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室、訪問教育の補いに対する課題④医療的ケア児への対応に対する課題<事前学習>保育現場における障害のある子どもや気になる子どもに対する課題を集めておく。<事後学習>この講義で学んだことの啓発に努める(これからずっと)
16	定期試験	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
在宅保育		菅原 亜紀		2	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2401	
		担当教員	菅原 亜紀					

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分又は事項等				
保	系 列	保育の対象の理解に関する科目			選択必修

【キーワード】		【概要】				
1	ベビーシッター	子育て支援のひとつとして訪問型の「在宅保育」があげられます。「在宅保育」の特殊性を理解し、その心構えや保育マインドについて学び、同時に技術・技能を身につけられるようにします。				
2	子育て支援					
3	個別保育					
4	訪問型保育					
5	保護者支援					
【到達目標】						
1. 「在宅保育」の考え方や、在宅における子育て支援の意義およびその在り方が理解できる。						
2. さまざまな子ども・家庭を支援するための心構えや保育マインドが理解できる。						
3. 在宅の保育において必要な技術を習得することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○		
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				○		
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○		
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○		
【成績評価の方法】						
成績指標		試験		提出物および受講態度		合計
評価割合（％）		60		40		100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。		
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。		
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。		
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 授業内でフィードバックを行う。定期試験に関しては、模範解答とコメントを学生に提示する。			
【教科書】 『家庭訪問保育の理論と実際』社団法人全国保育サービス協会 中央法規			
【参考書・参考資料等】 講義中に紹介します。			
【関連科目】 保育士資格取得に必要な科目			
【受講心得】 全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること			
【備考】 保育士課程選択必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション いのちについて		＜学習内容＞授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。いのちが生まれるということについて考える。また、在宅保育で大切にしたい保育マインドについて学ぶ。 ＜事前学習＞シラバス（講義要項）に目をとしておく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2	保育マインド		
3	在宅保育の概要		
4	在宅保育の実際		＜学習内容＞在宅保育の概要について学ぶ。また、実際のベビーシッターの業務についてDVDを使って学ぶ。 ＜事前学習＞教科書を読んでおく。（30分） ＜事後学習＞授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

5	乳幼児の発達と生活		<学習内容>乳幼児の発達と生活について確認するとともに大事にしたい大人のかかわりについて考える。また、個別保育の特性から職業倫理について考える。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
6	職業倫理とリスクマネジメント		
7	在宅保育における健康管理と事故対策①		<学習内容>在宅保育における健康管理について学ぶ。事故対策については事例とDVDを参考に、実際に対応ができるよう考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。(子どもの保健の教科書を含む)(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
8	在宅保育における健康管理と事故対策②		
9	保護者への対応		<学習内容>在宅保育における保護者支援について考えていく。その特性をいかした支援と配慮すべき点などを学ぶ。子どもの虐待についても個別保育とその特性をふまえて考えていく。 <事前学習>教科書を読んでおく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
10	子ども虐待		
11	特別な配慮を必要とする子どもへの対応①		<学習内容>特別な配慮を必要とする子どもへの対応について、発達障害とRADを中心に学ぶ。 <事前学習>今までに出会った子どもたちの姿を思い返しておく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
12	特別な配慮を必要とする子どもへの対応②		

13	子どもや保護者からの相談①		<学習内容>在宅保育の特性から子どもや保護者からの相談について考える。実践的に相談を受ける練習をする。 <事前学習>普段相談を受ける際に気を付けていることなどをまとめておく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
14	子どもや保護者からの相談②		
15	在宅保育の保育技術と遊びまとめ		<学習内容>在宅保育の特性を活かしたあそびと保育技術について考える。また、授業のまとめを行う。 <事前学習>今までの授業のプリントなどを振り返っておく。(30分) <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(30分)
16	試験		

科目名			担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究Ⅲ			難波 章人	2	前期	演習	選択	1
			担当形態	複数		ナンバリング		CE2312
			担当教員	難波章人、谷川裕子、豊辻晴香、砥上あゆみ、菅原亜紀				

幼	科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目			
	施行規則に定める科目区分又は事項等	保育内容の指導法			
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目			選択必修

【キーワード】		【概要】				
1	保育技術	学生一人ひとりの個性（興味や関心、得意な分野）をもとに、基本的技術・技能と指導技術について学習する。また、地域（幼稚園や保育所など）におけるサービ斯拉ーニングなどをおこなう。				
2	個性					
3	指導法					
4	地域					
5	サービ斯拉ーニング					
【到達目標】						
1. 個々の特性を活かした保育・教育の専門性に気付くことができる。						
2. 保育・教育指導に関する学習内容を、具体的な実践の場において検証することができる。						
3. 保育における効果的な指導法を追究することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性		
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				○		
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○		
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○		
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○		
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○		
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				○		
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○		
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				○		
【成績評価の方法】各表現活動における						
成績指標		受講態度等	各活動におけるレポート・提出物	各活動発表	合計	
評価割合（％）		40	40	20	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。		
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物の内容が十分である。		
B	取り組み内容を理解しているが、課題・提出物の内容が不十分である。		
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
レポートについてコメントを返却するので確認して返答すること。			
【教科書】			
特に指定しない。			
【参考書・参考資料等】			
講義の中で紹介する。			
【関連科目】			
「保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」「保育内容に関する科目全般」 「子どもの理解に関する科目全般」「保育・教職実践演習」			
【受講心得】			
プロの保育者・教育者を目指す志をもって臨む。			
【備考】			
保育士課程 選択必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	全員	＜学習内容＞保育・教育指導法の目的と内容及び進め方について説明する。 ＜事前学習＞事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
2	サービ斯拉ーニングの実際①	全員	＜学習内容＞5つのグループ分けを行う。それぞれグループごとに計画を立てる。 ＜事前学習＞講義要項及び打ち合わせ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
3	サービ斯拉ーニングの実際②	全員	＜学習内容＞各グループごとに、サービ斯拉ーニングとしてこどもまつりに向けての準備を始める。 ＜事前学習＞講義要項及び打ち合わせ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
4	サービ斯拉ーニングの実際③	全員	＜学習内容＞製作等準備① ＜事前学習＞講義要項及び打ち合わせ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
5	サービ斯拉ーニングの実際④	全員	＜学習内容＞製作等準備② ＜事前学習＞講義要項及び打ち合わせ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）

6	サービslラーニングの実際⑤	全員	＜学習内容＞製作等準備③ ＜事前学習＞講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
7	サービslラーニングの実際⑥	全員	＜学習内容＞製作等準備④ ＜事前学習＞講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
8	サービslラーニングの実際⑦	全員	＜学習内容＞製作等準備⑤ ＜事前学習＞講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
9	サービslラーニングの実際⑧	全員	＜学習内容＞製作等準備⑥ ＜事前学習＞講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
10	サービslラーニングの実際⑨	全員	＜学習内容＞製作等準備⑦ ＜事前学習＞講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
11	サービslラーニングの実際⑩	全員	＜学習内容＞こどもまつり当日のための環境構成を考えて準備を行う。 ＜事前学習＞講義要項及び打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
12	サービslラーニングの実際⑪	全員	＜学習内容＞こどもまつりにおいて園児たちに遊びを提供する。 ＜事前学習＞打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
13	サービslラーニングの実際⑫	全員	＜学習内容＞こどもまつりにおいて園児たちに遊びを提供する。 ＜事前学習＞打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
14	サービslラーニングの実際⑬	全員	＜学習内容＞こどもまつりにおいて園児たちに遊びを提供する。 ＜事前学習＞打ち合せ内容を確認のこと。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）

15	振り返りとまとめ	全員	＜学習内容＞こどもまつりの振り返りと検討会を行う。 ＜事前学習＞反省を各自考えておく。（0.5時間） ＜事後学習＞活動内容および学習内容を整理しておくこと。（0.5時間）
16			

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅳ		豊辻 晴香	2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数教員		ナンバリング		CE2314
		担当教員	下村燕子・多田裕子・豊辻晴香 福田陽子・水崎玄・淀川典子				

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分 又は事項等				
保	系 列	保育の内容・方法に関する科目			選択必修

【キーワード】	【概要】
1ピアノ演奏	音楽的に豊かな表現力と指導力が備わった保育・教育者となれるよう、個々のピアノ演奏技術を向上することを目的とする。前半には、音楽表現Ⅰ～Ⅲの復習や即興の伴奏法を学び、後半では各自が選択した課題内容（アニメーションやクラシックといった幅広いジャンルの楽曲の独奏や連弾等）にも挑戦する。また、最後に発表会を企画・運営・実演することで、2年間で培った演奏技術を披露するだけでなく、音楽の魅力的な提供法についても研究する。
2音楽的表現	
3即興の伴奏法	
4弾き歌い	
5ピアノ楽曲	

【到達目標】
1. 既習・体得した演奏技術を維持・向上させ、多様な楽曲のレパートリーを増やすことができる。
2. 幅広く豊かな音楽的表現ができるよう、演奏技術を身に付け実践することができる。
3. メロディに即興でコード和音を付けながら、伴奏することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】			
成績指標	取り組み姿勢・授業態度	発表会	合計
評価割合（％）	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を活かし優れた演奏である。					
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を活かした演奏である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれない演奏である。					
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる演奏である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
発表会の評価や内容について、終了時にその都度口頭で伝える。		
【教科書】		
『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】		
『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編著） チャイルド本社		
『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院		
【関連科目】		
「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「音楽表現指導法」「子どもと表現」		
【受講心得】		
ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。		
【備考】		
保育士課程選択必修		
【学習項目】		担当 学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション および ピアノ演奏・弾き歌いの発展①	各教員 ＜学習内容＞本授業の目的や進行等について理解する。また、既習曲の復習をする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
2	ピアノ演奏・弾き歌いの発展②	各教員 ＜学習内容＞既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌いやピアノ演奏に取り組む。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
3	ピアノ演奏・弾き歌いの発展③	各教員 ＜学習内容＞既習曲を復習しつつ、保育・教育現場を想定した歌いやピアノ演奏に取り組む。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
4	ピアノ演奏・弾き歌いの発展④ 弾き歌い発表会	各教員 ＜学習内容＞任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。 ＜事前学習＞発表会に向けて、練習に励む。（3時間） ＜事後学習＞発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
5	弾き歌いの伴奏法①	各教員 ＜学習内容＞メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
6	弾き歌いの伴奏法②	各教員 ＜学習内容＞メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）

7	弾き歌いの伴奏法③	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
8	弾き歌いの伴奏法④	各教員	<学習内容>メロディに即興でコードネームの和音を付けながら伴奏する技術を学ぶ。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
9	ピアノ楽曲の取り組み①	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
10	ピアノ楽曲の取り組み②	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
11	ピアノ楽曲の取り組み③	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
12	ピアノ楽曲の取り組み④	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
13	ピアノ楽曲の取り組み⑤	各教員	<学習内容>多様なジャンルのピアノ楽曲を、音楽的に表現しながら演奏する。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)
14	ピアノ楽曲の取り組み⑥ —発表会の準備—	各教員	<学習内容>全体発表会に向けて、演奏内容を高めるとともに、聴衆も楽しめる発表の仕方を考え備える。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間) <事後学習><事前学習>発表会に向けて、準備・練習に励む。(3時間)
15	全体発表会	各教員	<学習内容>これまでの成果を発揮しながら、クラス全体の前で演奏披露する。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間) <事後学習>今後に活かせるよう、全体発表会で学んだことを振り返る。(1時間)

16			
----	--	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅱ		砥上 あゆみ		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2316		
		担当教員	豊辻晴香、砥上あゆみ、畠中智恵					

幼	科 目			
	施行規則に定める科目区分 又は事項等			
保	系 列	保育実習		選択必修

【キーワード】	【概要】					
1 職業倫理	「保育実習Ⅰ」での学びを踏まえて、保育実践力の向上を目指す。子どもの観察とその記録及び子どもの援助やかかわり方、環境構成など、様々な実践を通して総合的に学ぶ。指導計画の立案、指導案の作成、実習記録に基づく省察等、記録を保育にいかす方法を習得する。 さらに、専門職としての保育士の役割、職業倫理を学ぶ、自己の課題を明確にする。					
2 子ども理解						
3 保育記録						
4 保育計画						
5 連携・協働						
【到達目標】						
1. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解を深めることができる。 2. 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について、総合的に理解できる。 3. 実習における自己の課題を明確にすることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○				
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○				
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	実習評価		提出物	合計		
評価割合（％）	70%		30%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を的確に記述している。					
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を十分に記述している。					
B	取り組み内容を理解しているが、課題に必要な内容の記述が十分ではない。					
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題が最低限の内容の記述に留まっている。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
提出された課題については、返却を行い、要点を確認する。		
【教科書】		
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館		
【参考書・参考資料等】		
適宜、プリントを配布する。		
【関連科目】		
「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」		
【受講心得】		
保育実習Ⅰの経験をいかし、学びを深めるために、自己の課題を明確にし、改善に努めること。		
【備考】		
保育士資格選択必修		
【学習項目】		学習内容、事前・事後学習（学習時間）
<実習内容> 1. 養護と教育が一体的に展開される保育の理解および技術の習得を目指す。 2. 子どもの最善の利益を考慮した保育の実際を理解および保育の展開の習得を目指す。 3. 保護者・家庭への支援と地域社会等の連携および保育者間でのチームワークの理解を目指す。 4. 全体的な計画に基づく保育指導計画の作成・実践・省察・評価の理解および実践力の向上を目指す。 <事前学習>（3時間） 実習目標をしっかりとて、目標を達成するために保育の知識のふりかえり、保育技術の向上に取り組むこと。 <事後学習>（3時間） 日々の実習目標をふりかえり、自己省察し、常に保育の知識・技術の習得に励むこと。		

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習Ⅲ			菅原 亜紀		2	前期	実習	選択	2
			担当形態	複数	ナンバリング			CE2317	
			担当教員	菅原亜紀 古野愛子					

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分 又は事項等				
保	系 列	保育実習			選択必修

【キーワード】	【概要】
1 実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、保育実習Ⅲでは、より具体的な支援・技術を養っていきます。より学びが深まるよう、子ども理解や保護者および家庭支援など具体的な実践に結びつけて参加型実習を行います。
2 施設	
3 障害	
4 社会的養護	
5 子ども家庭福祉	

【到達目標】	
1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能についての理解を深めることができる。	
2. 子どもやその家庭への理解をもとに、支援のための知識、技術を理解することができる。	
3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。	

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	実習の評価		提出物	合計
評価割合（％）	70		30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	実習課題を十分に理解しており、的確に実践や記録に結びつけることができる。					
A	実習課題をよく理解しており、十分に実践や記録に結びつけることができる。					
B	実習課題を理解しており、実践や記録に結びつけることができる。					
C	総じて実習課題を理解しており、実践や記録に最低限結びつけることができる。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習日誌等の評価とフィードバックは返却時に行う。		
【教科書】 63期生「実習の手引き」		
【参考書・参考資料等】		
【関連科目】 「保育実習Ⅰ」「保育実習指導」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
【受講心得】 ・短い実習期間を有意義に過ごすために、意欲をもって参加し、事前準備や実習の記録を具体的に行うこと		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
	実習は、2年次の7月以降、施設との調整のうえ10日間参加型実習を行う。 【実習課題】 1. 実習施設の役割と機能 2. 実習施設における支援の実際 ①受容、共感する態度 ②子どものニーズの把握と子ども理解 ③個別支援計画作成と実践の様子 ④家庭支援と対応 ⑤多様な専門職との連携 ⑥地域との連携 3. 保育士の業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化 <事前学習>実習指導の内容を確認し、実習に向けて準備を行うこと（1時間） <事後学習>実習で学んだことを整理すること（1時間）	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅱ		砥上 あゆみ		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2318		
		担当教員	豊辻晴香、砥上あゆみ、畠中智恵					
幼	科 目							
	施行規則に定める科目区分又は事項等							
保	系 列	保育実習						選択必修
【キーワード】		【概要】						
1	養護	・保育実習Ⅱの意義、目的を理解し、実習生としての必要な資質・知識・技術を演習をとおして学ぶ。自己の保育実践をふりかえり、保育士の専門性や職業倫理などについても理解を深めていく。						
2	教育							
3	実習							
4	職業倫理							
5	保育技術							
【到達目標】								
1. 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に理解することができる。								
2. 保育実習Ⅰや既習の教科目内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得することができる。								
3. 保育実践をふりかえり、保育者としての知識および技術の習得、資質について、自己課題を明確にできる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標		受講態度		提出物		合計		
評価割合（％）		70%		30%		100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を的確に記述している。							
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題に必要な内容を十分に記述している。							
B	取り組み内容を理解しているが、課題に必要な内容の記述が十分ではない。							
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題が最低限の内容の記述に留まっている。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
提出された課題については、返却を行い、要点を確認する。			
【教科書】			
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館			
【参考書・参考資料等】			
適宜、プリントを配布する。			
【関連科目】			
「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ」			
【受講心得】			
専門職である保育士の資格取得に係る実習ですので、意欲的に、責任感をもって参加すること。探求心をもち、学ぼうとする姿勢で臨んでください。			
【備考】			
保育士資格選択必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	保育実習Ⅱの意義、目的	全員	保育実習Ⅰ（保育所）での学びを基に、保育実習Ⅱの意義や目的について学ぶ。 事前学習（0.5時間） シラバスを読んでおくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2	保育士の専門性と職業倫理	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基に、保育士の専門性や職業倫理について、考えていく。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3	子どもの最善の利益を考慮した保育の実践①	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・子どもの観察に基づいて 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4	子どもの最善の利益を考慮した保育の実践②	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・子どもと保育者の関係性に基づいて 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5	子どもの最善の利益を考慮した保育の実践③	全員	各々の実習での気づきや学びを共有し、深めていく。 ・保育士としての役割について 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6	保育の知識・技術をいかした保育実践①	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 事前学習（1時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（1時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。

7	保育の知識・技術をいかした保育実践②	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを基礎とし、自己の課題を明確にし、保育技術の習得の向上を目指す。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅰでの気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8	保育実習Ⅱの書類準備	全員	保育実習Ⅱで使用する書類を作成する。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅱでの必要書類について確認しておくこと。 事後学習（0.5時間） 書類を完成させ、確認しておくこと。
9	保育の計画と実践①	全員	既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、指導案の作成をおこなう。 事前学習（1時間） 対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間） 指導案を完成させる。
10	保育の計画と実践②	全員	既習の教科目の知識、保育実習Ⅰの経験をいかしながら、指導案の作成をおこなう。 事前学習（0.5時間） 対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間） 指導案を完成させる。
11	保育の計画と実践③	全員	作成した指導案の評価や改善の視点を学ぶ。 事前学習（0.5時間） 指導案を見直し、気づいた点をまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 要点を整理しておくこと。
12	実習日誌の記録について	全員	保育実習Ⅰ（保育所）の実習記録を見直し、改善点や自己の課題を見出す。また、保育実習Ⅱでさらに記録の内容が深まるようにポイントを示していく。 事前学習（1時間） 対象年齢の保育内容について、考えておくこと。 事後学習（1時間） 指導案を完成させる。
13	実習の総括と自己評価	全員	保育実習の総括を行う。 事前学習（0.5時間） 保育実習Ⅱをふりかえり、気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 要点を整理しておくこと。
14	自己課題の明確化	全員	これまでの実習をふりかえり、自己の課題を明確にする。 事前学習（0.5時間） 保育実習をふりかえり、気づきをまとめておくこと。 事後学習（0.5時間） 自己課題を明確にし、記録しておくこと。
15	保育士の資質およびまとめ	全員	専門職として欠かせない保育士の資質について考えていく。 事前学習（1時間） 保育士の資質について、自分なりの考えをまとめておくこと。 事後学習（1時間） 気づき等をまとめておくこと。

科目名			担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導Ⅲ			菅原 亜紀		2	通年	演習	選択	1
			担当形態	複数	ナンバリング			CE2319	
			担当教員		菅原亜紀 古野愛子				

幼	科 目				
	施行規則に定める科目区分 又は事項等				
保	系 列	保育実習			選択必修

【キーワード】	【概要】					
1 実習	保育実習Ⅰ（施設）をふまえて、児童福祉施設（保育所以外）についてより学びを深めます。子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解を深め、支援の実際について考えていきます。その中で、保育士としての役割や業務内容、職業倫理について学び、保育実習Ⅲでの実践に結びつけていきます。					
2 施設						
3 障害						
4 社会的養護						
5 子ども家庭福祉						
【到達目標】						
1. 児童福祉施設（保育所以外）における保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解することができる。						
2. 子どもやその家庭への理解を深め、支援しようすることができる。						
3. 保育士としての自己課題を明確化することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○				
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○				
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○				
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。		○				
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度	提出物	合計			
評価割合（％）	50	50	100			
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、的確に実践や記録に結びつけることができる。					
A	講義内容をよく理解しており、十分に実践や記録に結びつけることができる。					
B	講義内容を理解しており、実践や記録に結びつけることができる。					
C	総じて講義内容を理解しており、実践や記録に最低限結びつけることができる。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
プリントを返却し、フィードバックを行う。		
【教科書】		
63期生「実習の手引き」 その他、適宜プリント、資料を配布します。		
【参考書・参考資料等】		
講義内で紹介します。		
【関連科目】		
「保育実習Ⅲ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」「特別支援教育Ⅰ」「特別支援教育Ⅱ」		
【受講心得】		
様々な児童福祉施設に興味をもち、意欲的に参加してください。遅刻・欠席、提出物の遅れなどが多い場合には、実習に関する指導が十分でないと判断し、実習を中止とすることがあります。		
【備考】		
【学習項目】		担当
1	保育実習Ⅰ（施設）の振り返り①	菅原古野
		<学習内容>保育実習Ⅰ（施設）でのふりかえりを行う。同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 <事前学習>実習日誌を読み返し、実習で感じたことや学んだことをふりかえっておく。（1時間） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
2	保育実習Ⅰ（施設）の振り返り②	菅原古野
		<学習内容>保育実習Ⅲでは、どのような学びをし、保育実習Ⅰ（施設）をふまえてどのように学びを深めていくのかを学ぶ。 <事前学習>シラバス（講義要項）に目を通しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
3	保育実習Ⅲの意義と目的	菅原
		<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
4	児童福祉施設の役割と機能について	菅原
		<学習内容>施設における支援の実際について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
5	子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援の実際	菅原
		<学習内容>施設における支援の実際について学ぶ。 <事前学習>社会的養護Ⅰでの学びを振り返っておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
6	児童福祉施設における保育士の役割と職業倫理	菅原
		<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）の特性をふまえて、保育士としての役割と職業倫理について考える。 <事前学習>保育士の役割や倫理とは何かを考えておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
7	子どもの最善の利益を考慮した保育	菅原
		<学習内容>子どもの最善の利益とは何か。保育士としてどのような視点で考えていけばよいのかを検討する。 <事前学習>子ども家庭福祉の教科書を確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）

8	子どもの姿とその背景にあるもの	菅原	<学習内容>児童福祉施設（保育所以外）に入所している子どもたちへの理解とその背景にある家庭、社会について考える。 <事前学習>児童福祉施設（保育所以外）にはどのような子どもたちが入所しているのかを確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
9	実習施設について理解を深める	菅原	<学習内容>自分が実習する施設について調べ、理解を深める。 <事前学習>必要な本などを図書館で借りて準備しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
10	実習の目標 実習生調書作成	菅原 古野	<学習内容>実習の目標について考え、グループで発表する。また、実習生調書の作成を行う。 <事前学習>実習施設について調べた資料や、調書に記入する際に必要な情報をまとめておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
11	実習日誌について 子どもを観る視点	菅原 古野	<学習内容>施設における日誌の書き方や、子どもを観る際の視点、大切にしたい視点などを学ぶ。 <事前学習>実習の手引きを確認しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
12	保育実習Ⅲの振り返り①	菅原 古野	<学習内容>保育実習Ⅲのふりかえりを行う。同じ種別のみでなくさまざまな種別で実習を行った学生とふりかえりを共有し、支援のあり方や施設の役割等について考える。 <事前学習>実習日誌を読み返しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
13	保育実習Ⅲの振り返り②	菅原 古野	
14	児童福祉施設における保育の実際と今後の展望	菅原	<学習内容>実習で学んだことを中心に、児童福祉施設（保育所以外）における保育の実際について考え、課題や今後の展望について意見交換する。 <事前学習>実習で見えてきた課題についてまとめておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
15	実習の総括と自己評価・課題の明確化	菅原 古野	<学習内容>自分自身の実習の総括を行い、自己評価をする。また、個々の課題を明確化し、何が必要なのかを考える。 <事前学習>実習のふりかえりを見返しておく。（30分） <事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（30分）
16			

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習指導		難波 章人		2	通年	演習	選択	1
		担当形態	オムニバス		ナンバリング		CE2206	
		担当教員	青沼典子 谷川裕子 難波章人					

幼	科 目	教育実践に関する科目		必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等		教育実習	
保	系 列			

【キーワード】	【概要】
1教育実習	教育実習Ⅰでの学びを生かし、教育実習Ⅱにおいて課題を持ち実習に臨めるよう学習する。教育実習Ⅱでは各講義での修得した理論を実践へ結びつけることができるように本授業においては、子どもの発達に応じた指導案作成と保育技術の向上に努める。また指導計画の作成・実践・評価を通して、保育者としての質の高い実践力を養う。また専門職として人間性と専門性の向上に努めることのできる基礎を養う。
2幼稚園	
3事前指導	
4事後指導	
5実践	

【到達目標】
1. 子ども理解と保育者としての援助の仕方を理解した指導案を作成することができる。
2. 保育のねらいに沿って指導計画として立案し、具体的な保育として展開できる。
3. 実習の総括を行い自己課題解決に向けて学習目標を持つ。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】				
成績指標	取り組み姿勢		提出物	合計
評価割合（％）	60%		40%	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準		
S	幼稚園教諭を目指すという明確な目標を持ち、なおかつ主体的に取り組む。講義内容も十分に理解している。		
A	実習生としての自覚を持ち、課題に対して必要な内容を理解している。		
B	実習内容を総じて理解し、課題に対して取り組んでいる。		
C	実習内容を理解しており、課題に対して最低限の評価が可能である。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
【教科書】 『実習の手引き』純真短期大学こども学科 『幼稚園教育要領解説』文科省フレーベル館			
【参考書・参考資料等】 適宜紹介			
【関連科目】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」			
【受講心得】 教育実習を前提とした科目であるため、特別な理由を除き欠席することなく参加すること。 欠席した場合は授業内容を担当教員に確認すること。			
【備考】 幼稚園教諭課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	幼稚園教諭の資質と教育実習の意義・目的	谷川	【学習内容】幼児教育の理論を理解し、幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割を理解する。また教育実習の意義・目的を確認する。 【事前学習】幼稚園教育要領第1章総則を読んでおく。（0.5時間）【事後学習】学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
2	実習園の選定・概要および個人調書の記入	難波	【学習内容】実習園に向けて情報収集の仕方と選定する方法を学び、実習園への書類作成をします。 【事前学習】自身の履歴を確認しておく。（1時間）【事後学習】書類の書き上げ（1時間）
3	指導案の立案（部分実習）と保育の展開	青沼	【学習内容】教育実習Ⅰにおける部分実習の指導を見直し、Ⅱにおける実習時期に沿った指導案を立案する。 【事前学習】発達時期に応じた子どもの姿を調べておく。（1時間）【事後学習】立案の見直し（0.5時間）
4	模擬保育	谷川	【学習内容】指導案に沿って実践する。 【事前学習】指導案の見直し（1時間半）【事後学習】自己課題を記述する。（0.5時間）
5	指導案の立案（1日実習）と保育の展開	難波	【学習内容】教育実習Ⅰにおける指導案を見直し指導案を立案する 【事前学習】発達に応じた子どもの姿を調べておく。（1時間）【事後学習】立案の見直し（0.5時間）

6	実習における諸注意	谷川	【学習内容】教育実習Ⅱにおける実習生としての態度や姿勢について、準備物の確認及び、学習目標を明確にする。 【事前学習】教育実習Ⅰの振り返り（0.5時間） 【事後学習】学習内容の整理（1時間）
7	教育実習Ⅱにおける振り返り	難波	【学習内容】教育実習Ⅰにおける記録と実習園からの評価に基づき、自己課題を見出す 【事前学習】教育実習日誌を振り返る（0.5時間） 【事後学習】学習内容を振り返り整理する（0.5時間）
8	教育実習ⅠおよびⅡのまとめ	谷川	【学習内容】教育実習の振り返りを行います。 【事前学習】教育実習日誌を振り返る（0.5時間） 【事後学習】

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習Ⅱ		難波 章人		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE2320	
		担当教員	青沼典子 谷川裕子					

幼	科 目	教育実践に関する科目		選択必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育実習		
保	系 列			

【キーワード】	【概要】
1 教育実習	・保育観察と参加をしながら、部分的な設定保育や全日実習など、子どもを対象にしたより具体的な保育実践に取り組み、教育実習Ⅰの経験と学びを深める。 ・子どもの発達理解や心情理解をもとに、子どもとの信頼を深める実践的なかわりを大切にしつつ、クラス集団を対象とした保育や指導について「保育のねらい」を明確にした指導計画を立案し、部分実習や全日実習に取り組む。 ・保育環境の整備や教員間の連携や協同、家庭や地域との連携など多岐にわたる幼稚園教諭の業務内容について理解を深める。
2 幼稚園	
3 幼稚園教諭	
4 実地体験	
5 保育実践	

【到達目標】
1. 指導計画をもとに保育のねらいを達成するための適切な教材研究や準備、練習等に取り組むことができる。 2. 設定保育や全日実習の保育実践の結果を振り返り、指導計画の修正や改善の手がかりを捉えて次の保育実践に生かすことができる。 3. 幼稚園教諭の多岐にわたる教育活動や教員間の連携等の理解を深め、実習以降の学習課題を明確にすることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実施に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	実習園の評価	実習に対する取り組み	合計
評価割合（％）	80％	20％	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準
S	実習生としての自覚を持ち、自己課題解決に努める姿が実習園からも評価されている。
A	実習生としての意識を持ち、学びに繋げる努力が実習園から評価されている。
B	実習生としての態度で臨むことができるが、学びを得るための積極性に欠けた評価となっている。
C	実習生として参加することができ、最低限の知識を習得できた。
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。	
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学 こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）	
【参考書・参考資料等】 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）	
【関連科目】 「教育実習指導」「教育実習Ⅰ」	
【受講心得】 ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。	
【備考】 幼稚園教諭免許 選択必修	
【学習項目】 ※2週間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかわりコミュニケーションを図る。 ④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。 ⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。 ⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ ⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。 ⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。 ⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。 ⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 ⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。 【事前学習】実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間 【事後学習】実習中毎日、日誌の記入とともに、実習の振り返り、責任保育のブラッシュアップする。1時間	

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
教育インターンシップ		難波 章人		2	前期	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング		CE2320		
		担当教員	青沼典子 谷川裕子 難波章人					
幼	科 目	教育実践に関する科目					選択必修	
	施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実習						
保	系 列							
【キーワード】		【概要】						
1	教育実習	子どもとのかかわりやメンター教諭のサポートとして保育に参加することを軸にしながら、園行事や預かり保育といった通常の短期間の実習では体験できない保育や教員同士の連携作業、園の業務に可能な限り参加していく。そして幅広く幼稚園の役割と幼稚園教諭の業務内容を実践的な体験から学ぶ。また、長期に渡る子どもの観察から成長と発達の変化の有り様を理解し、そこに寄り添う幼稚園教諭の仕事のやりがいを実感する。						
2	幼稚園							
3	幼稚園教諭							
4	インターンシップ							
5	保育実践							
【到達目標】 1. 園の業務に参加して幼稚園の役割を理解することができる。 2. 一教員としての気持ちを持って幼稚園の業務に参加することができる。 3. 保育時間外の多岐にわたる準備、打ち合わせ等や教員間の報告・連絡・相談の重要性をより深く理解することができる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性	
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							○	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○	
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○	
【成績評価の方法】								
成績指標		実習園の評価		実習に対する取り組み		合計		
評価割合（％）		80%		20%		100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		

GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	実習生としての自覚を持ち、自己課題解決に努める姿が実習園からも評価されている。					
A	実習生としての意識を持ち、学びに繋げる努力が実習園から評価されている。					
B	実習生としての態度で臨むことができるが、学びを得るための積極性に欠けた評価となっている。					
C	実習生として参加することができ、最低限の知識を習得できた。					
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。						
【教科書】 『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）						
【参考書・参考資料等】 『保育指導案大百科事典』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】 「教育実習指導」「教育実習Ⅰ」						
【受講心得】 ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。						
【備考】 幼稚園教諭免許 選択必修						
【学習項目】						
※実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。 ①実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ②個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ③遊びや園生活の中で積極的に子どもとかわりコミュニケーションを図る。 ④参与観察や子どもとの関わりを通して子どもの実態把握や遊びや活動に関する子どものニーズを汲み取る。 ⑤クラス集団を対象したメンター教員の保育の工夫や配慮の意図を考察する。 ⑥保育環境構成の意図や工夫を学ぶ ⑦保育のねらいを立て指導計画を立案し指導案を記述する。 ⑧指導計画に沿って準備とシミュレーションを入念に取り組む。 ⑨指導計画をもとに設定保育や全日実習に取り組む。 ⑩保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 ⑪教育活動の終了後に行う教育活動（家庭や地域との連携、子育て支援活動など）について、メンター教員の指導のもと可能な限り取り組み、指導や助言を受ける。						
【事前学習】実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（業務の準備、絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間						
【事後学習】インターンシップ中、本学指導教員に中間報告を行う。また、終了後、出勤簿及び活動記録日誌を指導教員に提出・報告を行い、実習のまとめとする。3時間						

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実技		春田 智明	2	前期	演習	選択	1
		担当形態	単独		ナンバリング		CE2402
		担当教員	春田 智明				

幼	科 目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列						

【キーワード】	【概要】
1 コミュニケーション	既習のレクリエーション理論や方法をふまえてつ、対象者や目的に合わせたレクリエーションを企画・展開できるレクリエーションの活動や支援について、現場を想定しながら実技や演習を通して学ぶ。
2 ホスピタリティ	
3 健康づくり	
4 遊び	
5 楽しさ	

【到達目標】
1. レクリエーション支援の方法と活動の展開方法を身に付けることができる。
2. レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を身に付けることができる。
3. 対象者や活動現場を想定したレクリエーション支援を実施し、評価し、改善することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	受講態度等	合計
評価割合（％）	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	実技内容を十分に理解しており、支援に必要な内容を的確に実施できる。					
A	実技内容を理解しており、支援に必要な内容を十分に実施できる					
B	実技内容を理解しているが、支援に必要な内容を実施できる。					
C	実技内容の概要を理解しており、支援に対して最低限の評価。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
試験終了後、模範解答とコメントを返答する。			
【教科書】			
適宜資料配布・紹介する。			
【参考書・参考資料等】			
『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会			
【関連科目】			
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」			
【受講心得】			
本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。			
【備考】			
レクリエーション・インストラクター課程必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	信頼関係づくりの方法とホスピタリティ①		＜学習内容＞ホスピタリティートレーニング
2	信頼関係づくりの方法とホスピタリティ②		＜事前学習＞テキストに目を通しておくこと（1時間） ＜事後学習＞生活の場での実践練習（各々の時間）
3	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング①		＜学習内容＞集団がまとまる仕組みを学ぶ
4	良好な集団作りの方法とアイスブレイキング②		＜事前学習＞テキストに目を通しておくこと（1時間） ＜事後学習＞生活の場での実践（各々の時間）
5	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法①		＜学習内容＞複数回の成功体験を楽しむ
6	自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法②		＜事前学習＞テキストに目を通しておくこと（1時間） ＜事後学習＞生活の場での実践（各々の時間）

7	レクリエーション支援のための プログラムと活動の習得①		<学習内容>プログラム計画
8	レクリエーション支援のための プログラムと活動の習得②		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
9	レクリエーション支援のための プログラムと活動の習得③		<学習内容>
10	レクリエーション支援の実施①		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
11	レクリエーション支援の実施②		<学習内容>プログラムの実施・振り返り
12	レクリエーション支援の実施③		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
13	レクリエーション支援の実施④		<学習内容>プログラムの実施・振り返り
14	レクリエーション支援の実施⑤		<事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）
15	レクリエーション支援の実施⑥		<学習内容>プログラムの総括 <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習>生活の場での実践（各々の時間）

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実習		春田 智明	1・2	通年	実習	選択	1
		担当形態	複数教員		ナンバリング		CE1102
		担当教員	春田智明・豊辻晴香				

幼	科 目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列						

【キーワード】	【概要】					
1レクリエーション支援	これまでに習得した知識もとに、レクリエーションの現場実習を通して具体的な実践・応用方法を学びながら、心の元気づくりを支援できるレクリエーション・インストラクターを目指す。なお、回数と時間数が定められた2種類のレクリエーション実習の両方に取り組む必要がある。					
2現場実習						
3レクリエーション事業						
4ニーズ						
5心の元気づくり						
【到達目標】						
1．活動現場で実際にレクリエーション支援を行うことで、これまでの学習成果を実践力として定着することができる。						
2．対象者の主体性や協調性を引き出しつつ、レクリエーション支援の準備、展開、評価することができる。						
3．さまざまな立場でレクリエーション支援にかかわることで、ニーズや活用法を理解することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性				
【知識・理解・技能】						
1．保育・教育に必要な専門的知識を修得している。		○				
2．子どもの心身の発達特性や健康について理解している。		○				
3．保育・教育の実践的な技能を身に付けている。		○				
【思考・判断・表現】						
1．多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○				
2．保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。		○				
3．保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。		○				
【関心・意欲・態度】						
1．子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○				
2．保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。		○				
3．子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度	提出物	合計			
評価割合（％）	80	20	100			
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GPA	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、学んだ知識や技術を適切に活かしながら実践できる。					
A	講義内容を理解しており、学んだ知識や技術を十分に活かしながら実践できる。					
B	講義内容を総じて理解しているが、学んだ知識や技術を活かしきれていない実践である。					
C	講義内容の概要を理解しており、学んだ知識や技術が最低限みられる実践である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。	
【教科書】	
『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会	
【参考書・参考資料等】	
適宜資料配布・紹介する。	
【関連科目】	
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」	
【受講心得】	
レクリエーション活動について、日頃より関心をもち、情報収集に努めること。 本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。	
【備考】	
レクリエーション・インストラクター資格課程必修	
【学習項目】	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
<学習内容> 当授業は、下記の２種類のレクリエーション実習に対し、それぞれの規定回数および時間数、取り組む必要がある。また、スタッフ参加実習では実習後の「課題レポート」を作成・提出しなければならない。 ①スタッフ参加実習（１回以上／総計６時間以上） レクリエーション支援に関する実習に「運営スタッフ」としてかわり、プログラムの計画から実施、評価まで一連の流れを経験することで実践力を身に付ける。当実習は、終了後に必ず課題レポートを作成し提出する。 ②事業参加実習（２回以上／総計３時間以上） レクリエーション支援を行う現場に「参加者」としてかわることで、地域において実施されているレクリエーション活動のニーズを理解し、技術や活動法の知識を深める。	
<事前学習> それぞれの実習内容に関して事前に調べ学習をしておくこと。（１.0時間） <事後学習> 授業で習得したことを日常でチャレンジしてみること。（１.0時間） スタッフ参加実習後は、既定のレポートを作成・提出すること。（１.5時間）	